

2016年5月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、ユーラシア大陸北部から日本付近にかけて波列パターンがみられ、ロシア西部、日本付近では正偏差、中央シベリアでは負偏差となった。ユーラシア大陸から日本の東海上にかけての偏西風は、平年の位置と比べて北寄り flowed。海面気圧をみると、太平洋高気圧の西への張り出しは平年と比べて強く、日本付近では南高北低の偏差パターンとなった。帯状平均した気温は、対流圏では広く高温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インド洋、南太平洋中部、北太平洋東部で活発、太平洋西部、大西洋赤道域で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬から中旬にかけて、アフリカからインド洋を東進した。対流圏下層のインド洋では低気圧性循環偏差、太平洋西部では高気圧性循環偏差となった。対流圏上層では、太平洋の西部で低気圧性循環偏差、東部で高気圧性循環偏差が南北半球対で見られた。南方振動指数は+0.5だった。

世界の天候

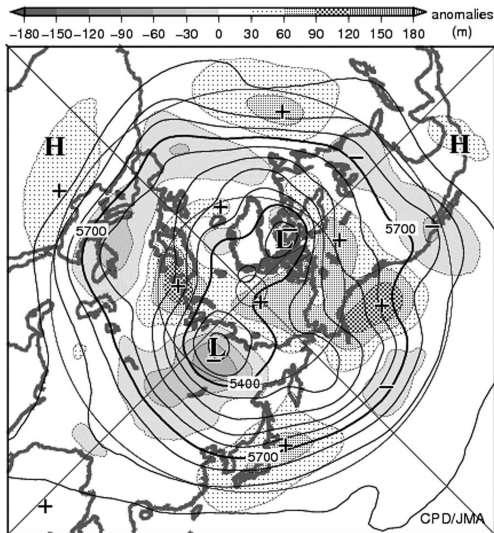
2016年5月の世界の月平均気温偏差は+0.37°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、2番目に高い値となった。5月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.71°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

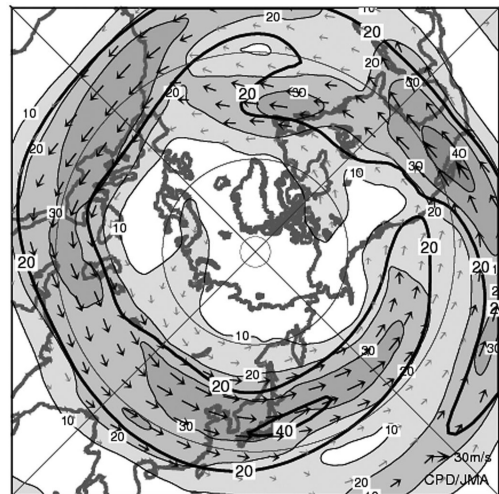
- 低緯度域の各地で異常高温となった。
- フランス北部～イタリアで異常多雨となった。
- ブラジル東部で異常少雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

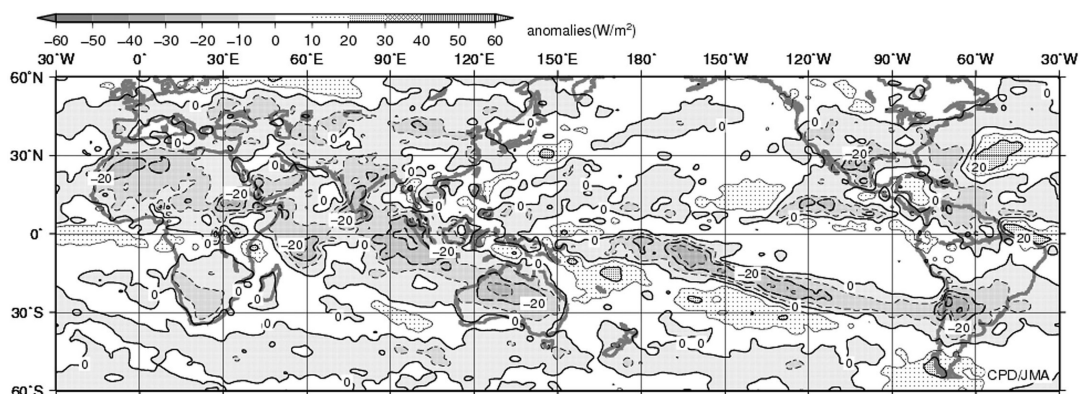
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



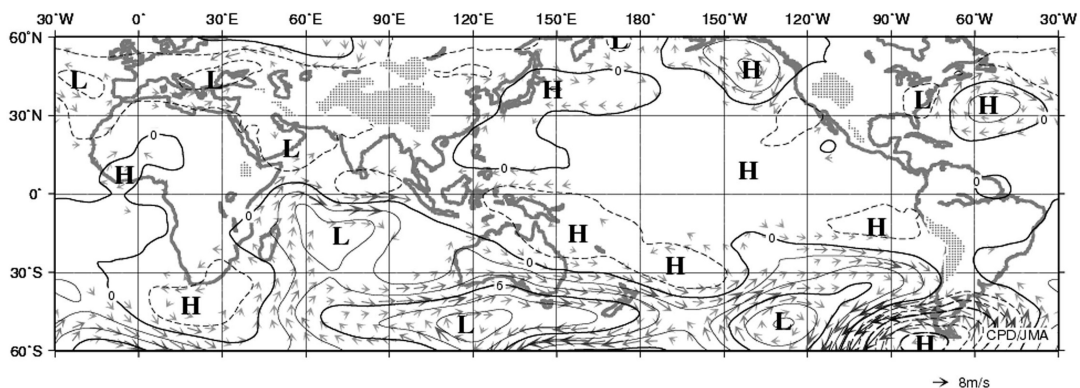
2016年5月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差
 等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。



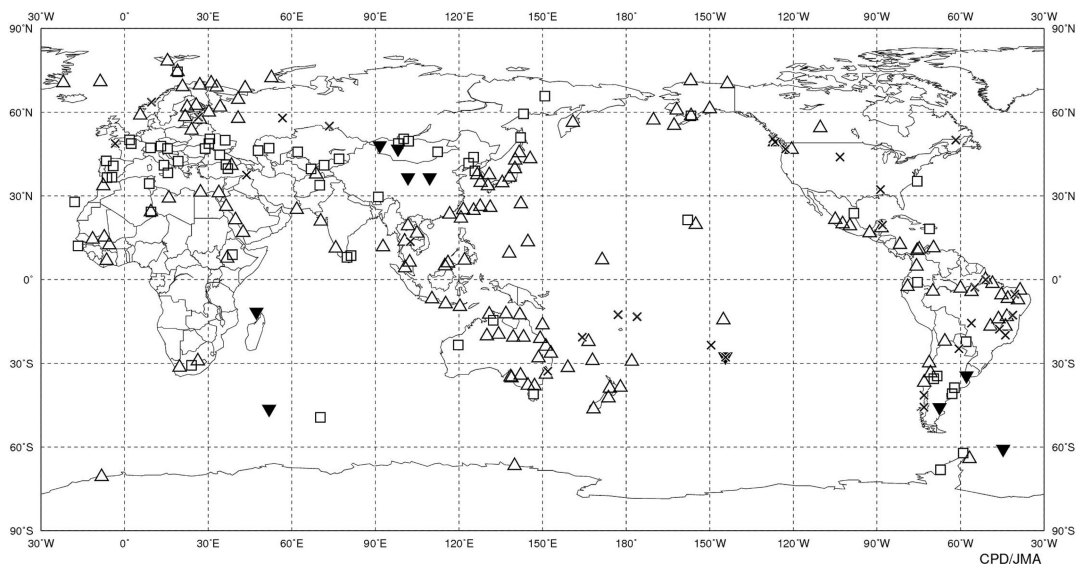
2016年5月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル
 等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2016年5月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋
 大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2016年5月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2016年5月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。